各　　位　　平成１８年３月２日

会 社 名　株式会社 神戸製鋼所
（URL　http://www.kobelco.co.jp）
代表者名　代表取締役社長　犬伏　泰夫
（コード番号　5406　東証、大証、名証）
問合せ先　秘書広報部長　　泉　博二
（TEL　03-5739-6010）

平成１８年３月期 業績見通し並びに期末配当について

当社の第 153 期（平成 18 年 3 月期）の業績につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

（１）連結業績見通し

当期のわが国経済は、企業収益が高水準で推移するもとで、民間設備投資が引き続き増加しているほか、個人消費も雇用者所得の増加を受けて底堅く推移しており、景気は着実に回復を続けております。海外においても、原油価格の高騰などによるインフレ圧力の高まりはあるものの、全般に好調を持続しております。

鋼材需要につきましては、引き続き自動車、造船など国内製造業向けが好調に推移しております。一方、汎用品については、中国の生産拡大に伴う需給緩和の進展により過剰感が解消されない状況が続いておりますが、中国市場において在庫減少や一部市況に回復の兆しが伝えられるなど、ようやく底入れの兆候が散見されるようになってきました。このような状況の下、当期の全国粗鋼生産は 1 億 1,265 万トンとなる見通しです。

当社鉄鋼関連事業につきましては、国内外の汎用品の需給軟化が進展するなか価格重視の受注姿勢を堅持しており、上半期より実施中の輸出向け減産に加え、国内向けの薄板についても減産に取り組んでおります。販売価格に関しては、輸出が汎用品の国際市況軟化の影響を受けたものの、国内が製造業向けを中心に回復するなど全体として価格の改善が進捗いたしました。

当期の連結売上高につきましては、前回見通し並みの 16,600 億円程度となる見通しです。また、経常利益は、鉄鋼関連事業の減産影響がある一方、その他の事業が総じて堅調に推移していることに加えて、アルミ・銅関連事業において地金価格の高騰に伴い総平均法に基づく在庫評価の影響による収益の押し上げ効果があることなどから、前回見通しに比べて 50 億円増益の 1,700 億円程度となる見通しです。

一方、当期純利益につきましては、土壌汚染の確認された旧尼崎製鉄所用地に係る汚染拡散防止工事等の対策費用約 30 億円を特別損失に計上することなどから、前回見通し並みの 800 億円程度となる見通しです。

【連結業績見通し】 （億円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
今　回　見　通　し	16,600	1,700	800
前回見通し(昨年 10 月 31 日)	16,600	1,650	800
（参考）前　期　実　績	14,437	1,160	512

（２）単独業績見通し

当期の売上高は、前回見通し並みの 10,400 億円程度となる見込です。また、経常利益は前回見通しを上回る 1,100 億円程度、当期純利益は前回見通し並みの 500 億円程度となる見通しです。

【単独業績見通し】 （億円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
今　回　見　通　し	10,400	1,100	500
前回見通し(昨年 10 月 31 日)	10,400	1,050	500
（参考）前　期　実　績	8,997	678	310

〔期末配当について〕

当期の期末配当については、本年度の業績見通し及び内部留保の状況を勘案し、１株につき 6 円とする案を定時株主総会にお諮りする旨、本日開催の取締役会において決議しました。

以　　上

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。